

校内研修計画

甲州市立松里小学校

1. 学校課題

本校では、昨年度より「算数科」において課題を理解し自分の考えを持って「学びをつくる」ことをめざし研究を進めてきた。校内研究を学力向上という今日的な教育課題を意識して、系統性の高い算数科で進めることは、共通理解が図られやすく研究の方向性を具体的にして取り組むことができると言える。

初年度は基礎学力を身につける手立てとして朝学習と家庭学習ノート「松小☆かがやきノート」への取組を始め、基礎学力の積み上げや学習習慣の体制づくりを家庭と連携し行った。

また、研究授業を通して「考える力」を育むための既習事項の大切さ、思考を引き出し整理する操作活動やワークシートなどのあり方、思考を深める視点の与え方、効果的な伝え合う活動の取り入れ方についてなど様々な指導が有効であることが明らかになった。

二年目はさらに、基礎学力を身につけるため、朝学習の習慣化、「松小☆かがやきノート」の内容面の充実、視聴覚機器の導入をし、学習意欲を高めたり、学力の定着に繋げたりすることができた。「学びをつくる」点においては、「アクティブラーニング」を意識して、授業の構造化などのさまざまな取組をした。

二年間の研究で、数々の成果を出すことができてはいるが、子どもの変容や成長は継続しなければ結果が見えてこないものもある。また、今年度の研究の課題には、「考える視点や、発達段階に応じた表現方法や伝え合いには、今後さらに研究していく必要がある。」「考える力を育む効果的な支援をさらに検討検証していきたい。」との意見も挙げられている。

そこで、今年度は、研究の三年目として、基礎学力の定着と考える力を土台とした学びづくりに重点をおき、今までの研究をさらに深めていくことが課題であると考えます。

2. 研究主題

いきいきと学びをつくる子どもの育成
～ 算数科を通して、考える力を育む授業づくり ～

3. 主題設定の理由

研究主題『いきいきと学びをつくる子どもの育成』の「いきいき」とは、元気で活気があり子どもらしい姿である。子どもたちの「いきいきとした瞳」「いきいきとした表情、活動」が教室で生まれるような、意欲的な主体的な学びをつくり出していきいたいと考える。

「学びをつくる」とは、学習課題を理解して、意欲的に課題に取り組み、問題解決に個人および集団で取り組む過程である。子どもの視点から見ると、課題がわかり、解決の方法が考えられ、試行錯誤しながらできるようになる楽しさや達成感を味わう過程といえるであろう。「いきいき」と意欲的に「学びをつくる」姿とは、まさに学習者として自立した姿でもある。

今年度も、昨年度に引き続き、この研究主題に迫るために、算数科における授業づくりを通して取り組んでいきたいと考える。

系統性の高い算数科において基礎学力は学びをつくり出す大切な力である。今まで、基礎学力の定着を図るために、朝学習や自主学習の充実、発達段階に沿った図や式の表し方、視聴覚機器等の活用も取り入れてきたが、今年度もさらに研究を継続し、児童の基礎学力を高めていきたい。

さらに、子どもが問いを持って問題解決に挑む「学びをつくる」過程においては、「考える力を育む」効果的な支援や「伝え合う活動」を充実させる手立てなど、さらに追究していきいたいと考える。

子どもたちに算数科でつけさせたい力を、「基礎学力」と「学びをつくる力」と捉え、そのための様々な指導の工夫と、「学びを支える取組」を共に行うことで『いきいきと学びをつくる子どもの育成』に迫ることができると願い、本主題を設定する。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的な研究内容

○基礎学力を身につける指導の工夫

- ・朝学習の充実（算数は2日以上。1日は読書）・家庭学習の習慣化（「松小☆かがやきノート」の継続）
- ・新しい知識や技能の定着（視覚的 ポイント）
- ・少人数、個別指導の充実（スモールステップ教材） ・ICT機器の活用（タブレットなど）

○考える力を育む指導の工夫

- ・自分の考えをもつ場面設定や活動 ・具体的な操作活動や体験的な活動 ・授業の構造化
- ・絵や図、言葉や式を用いて考える得る活動 ・伝え合う活動 ・板書の工夫
- ・ノート指導（ティチャーズノート） ・アクティブラーニングの視点

○学びを支える取組（確かな学力プロジェクト）

- ・学習環境の整備（学習規律 生活習慣）
- ・集団作り（Q-Uテストの分析 児童の実態把握）
- ・意識調査（子どもの意識や変容を知る）

(2) 研究の方法

- 算数科でめざす確かな学力についての研修
 - ・講師を招いての理論研修 ・授業研究会への参加（「確かな学力」育成プロジェクト）
- 公開授業研究
- 一人一実践

年間校内研修計画

研究主任 高石 圭子

テーマ	教科領域	内 容	担当者	学年	授業の時期	T・C要請	
松小☆かがやきノートの育成	算	研究主題・仮説・内容と方法・研究計画の提案	研究主任				
		研究主題・仮説・内容と方法・研究計画の決定	研究主任				
		部会の方向性 研究内容・計画	部会				
		意識調査分析 Q-Uの分析とK13法の実施	部会				
	学習会「考える力・伝え合う力を育む」支援の方法	研究主任				○	
	P①学級づくり学習会 鹿嶋先生	学力プロ					
	P②授業づくり講演会 市川先生	学力プロ					
	数	教育課程還流報告 学習会	研究主任				
		部会研究（授業案づくり，基礎学力づくりの取組）	部会				
		部会の還流	研究主任				
		部会研究（授業案づくり，基礎学力づくりの取組）	部会				
		P③小学校授業研究会 盛山先生	学力プロ				
		授業案検討	研究主任				
		授業実践提案 研究会	研究主任	4年生	11/8	○	
		Q-Uの分析とK13法の実施 部会振り返り	研究主任		(予定)		
		P④教育講演会 河村先生	学力プロ				
		研究紀要分担（部会振り返り）	全体部会				
	科	P⑤集団作り講演会 直山先生	学力プロ				
		部会ごとのまとめ	部会				
		意識調査2回目考察 部会還流	研究主任				
今年度の総括 今年度のまとめと来年度へ向けて		研究主任					
研究紀要作成		研究主任					

